



原子力発電所周辺の環境放射能 調査報告の概要

- I 平成23年度第1四半期環境放射能調査報告
- II 福島第一原子力発電所事故に関連した臨時放射能
調査報告(平成23年3月～9月)

平成23年10月31日
福井県環境放射能測定技術会議



健康長寿な福井です。

I 平成23年度第1四半期

環境放射能調査報告



健康長寿な福井です。

平成23年度第1四半期調査件数

線量率連続測定			7 1 地点	環 境 試 料	核 種 分 析	海 水	1 4 試料
積 算 線 量			1 2 3 地点			海底土	2 3 試料
浮遊じん放射能濃度の連続測定			1 1 地点			海産食品	4 4 試料
環 境 試 料	核 種 分 析	大気中ヨウ素-131	3 0 試料			指標海産生物	2 2 試料
		浮遊じん	4 8 試料		ト リ ウ ム 分 析	陸 水	8 試料
		陸 水	8 試料			大気中水分	4 2 試料
		陸 土	9 試料			雨水(3 ヶ月混合試料)	1 1 試料
		原 乳	2 試料			海水	2 6 試料
		指標植物	1 2 試料				
		松 葉	4 試料				
降下物			3 3 試料		環境試料合計		3 3 6 試料

* : 大気中ヨウ素については、同一地点で粒子状とガス状試料を個別に採取・測定



1 空間線量率連続測定結果

(報告書: 本文はp.2～3、連続測定結果は第1表・第2表[p.29～35])

- ① 嶺南地域を中心に、県18地点、日本原子力発電10地点、関西電力32地点、日本原子力研究開発機構11地点、 計71地点の連続測定結果の報告
- ② 月間の平常値の範囲を超えたデータが観測されたが、敦賀地区の3地点において静穏時の大気中ラドン娘核種濃度上昇による影響が最大5時間、高浜地区の1地点においてL型輸送物による影響が観測された以外は、いずれも降雨に伴う天然放射能の影響によるものであった。

結論 ⇒ 県内原子力発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇率は観測されなかった。



空間線量率が平常値の範囲（「平均値＋3倍の標準偏差」）を超えた時間と、その原因（p.2 表－1）

地区 (地点数)	降雨	降雨以外	原子力発電 所の影響
敦賀（20）	4～28	0～5	0
白木（7）	6～25	0	0
美浜（14）	6～28	0	0
大飯（16）	8～28	0	0
高浜（14）	8～26	0～1	0

注：1時間値を基に評価し、月毎の時間数の最高と最低を示した。



2 積算線量測定結果

(報告書:本文はp.3～5、測定結果は第3表[p.38～40])

①測定地点:計123地点

(敦賀地区 26地点、白木地区 14地点、美浜地区 22地点、
大飯地区 26地点、高浜地区 25地点、対照地区 10地点)

②測定結果

平常の変動幅の上限(過去5力年平均値 $+3 \times$ 標準偏差)を超えた地点はなく、**発電所の運転による線量上昇は観測されなかった。**



3 浮遊じん放射能の連続測定結果

(報告書: 本文はp.5、連続測定結果は第4表[p.43～44])

- ①県が11地点で α 放射能、 β 放射能を連続測定
- ②人工放射能検出の指標となる β / α 放射能濃度比で、平常値の範囲を超えたデータが最高3回／月観測された。
- ③これらは、平常の変動幅をわずかに超えたもの、もしくは空气中放射能濃度が低いときに観測されたものであり、統計的なバラツキによるものであった。

結論⇒ いずれも天然放射能のレベルであり、県内(原子力)発電所からの放射性物質の放出に起因する影響は認められなかった。

なお、核種分析において、福島第一原子力発電所の影響と考えられるヨウ素-131等の人工放射性核種が検出されたが、天然放射能レベルに比べて十分低く、浮遊じん連続測定結果に影響を与えるものではなかった。



浮遊じん放射能濃度比⇒「平均値＋3倍の標準偏差」を超えた時間と、その原因（第4表[p.43～44]）

地区(地点数)	自然変動	その他	原子力発電所の影響
敦賀（2）	0	0	0
白木（2）	0～3	0	0
美浜（2）	0～2	0	0
大飯（2）	0～3	0	0
高浜（3）	0～2	0	0

注：3時間値を基に評価し、月毎の時間数の最高と最低を示した。



4 核種分析結果

(報告書: 本文はp.5～8、測定結果は第5～16表[p.45～57])

①調査目的

周辺公衆の線量の推定、評価

→ 飲食物摂取による内部被ばく評価

環境における放射能水準の変動傾向、蓄積状況の把握

②調査対象試料

陸上: 大気中ヨウ素、浮遊じん、陸水、陸土、原乳、指標植物、松葉、
降下物

海洋: 海水、海底土、海産食品、指標海産生物

③調査対象核種

核分裂生成物

Cs-134、137、I-131、Ru-106、Ce-144等

腐食生成物(放射化)

Co-60,58、Mn-54、Na-22等

天然放射性核種

ウラン系列、トリウム系列、K-40、
宇宙線生成核種(Be-7、Na-22)



核種分析結果の概要

福島第一原子力発電所事故の影響に伴い、大気試料、指標植物(ヨモギ)、松葉、降下物、海産食品、指標海産生物からI-131、Cs-134およびCs-137が検出された。

また、陸土、海水、海底土からは、過去の核実験影響に伴うCs-137が従来レベルで検出された。

目的核種等が検出された試料数

	地区 試料	調査 試料数	敦賀	白木	美浜	大飯	高浜	対照
陸上	大気中ヨウ素-131*	30	2	2	2	2	2	／
	浮遊じん	48	9	4	4	5	6	2
	陸水	13	0	0	0	0	0	0
	陸土	8	2	1	1	1	1	2
	原乳	2	／	／	0	／	／	0
	ヨモギ	12	2	2	2	2	2	2
	松葉	4	1	／	1	1	1	／
	降下物	33	6	4	5	5	5	3
海洋	海水	14	2	1	3	1	4	1
	海底土	23	0	0	2	0	5	／
	海産食品(魚類)	16	2	2	3	1	3	2
	海産食品(貝類)	11	0	0	1	2	1	／
	海産食品(藻類)	17	1	2	1	2	0	2
	指標海産生物	22	6	1	2	1	3	1

注:／は調査対象外

*:大気中ヨウ素については、同一地点で粒子状とガス状試料を個別に採取・測定

ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137が検出された事例

1. 陸上試料

大気中ヨウ素、浮遊じん、指標植物、降下物からヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137が過去3ヵ年実績を超えて検出された。

表1 大気中ヨウ素

単位:mBq/m³

地 区	採取地点	採 取 期 間	粒子状 ¹³¹ I濃度	ガス状 ¹³¹ I濃度
敦賀	浦底A	11.04.07～11.05.11	0.1	0.2
白木	白木A	11.04.06～11.05.11	0.1	0.2
美浜	竹波A	11.04.06～11.05.11	0.1	0.2
大飯	宮留A	11.04.06～11.05.10	0.0	0.2
高浜	小黑飯A	11.04.05～11.05.10	0.1	0.2

表2 浮遊じん

単位: mBq/m³

地区	採取地点	採取期間	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs
敦賀	立石B	11.04.04～11.07.01	ND～0.1	ND～0.8	ND～0.7
	浦底A	11.04.07～11.07.07	／	ND～0.5	ND～0.6
	浦底B	11.04.04～11.07.01	ND～0.1	ND～0.8	ND～0.7
	色ヶ浜B	11.04.04～11.07.01	ND～0.1	ND～0.8	ND～0.7
白木	白木A	11.04.06～11.07.06	／	ND～0.7	ND～0.7
	松ヶ崎D	11.04.04～11.07.04	ND～0.1	ND～0.5	ND～0.5
美浜	竹波A	11.04.06～11.07.06	／	ND～0.5	ND～0.6
	丹生	11.04.05～11.07.01	ND～0.1	ND～0.8	ND～0.7
大飯	宮留A	11.04.06～11.07.06	／	ND～0.5	ND～0.4
	宮留	11.04.04～11.07.04	ND～0.0	ND～0.5	ND～0.4
高浜	音海	11.04.04～11.07.04	ND～0.1	ND～0.5	ND～0.4
	小黑飯A	11.04.05～11.07.05	／	ND～0.4	ND～0.4
	小黑飯	11.04.04～11.07.04	ND～0.0	ND～0.5	ND～0.4
対照	原目町 (福井分室)	11.04.01～11.06.02	ND～0.3	ND～0.1	ND～0.2

注: NDは検出限界値未満、／は調査対象外

浮遊じんの調査地点は各機関の線量率連続測定地点あるいはその付近である。

I-131はガス状のものを含まない浮遊じんのみの測定結果である。

表3 降下物

単位: Bq/m²

地区	採取地点	採取期間	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs
敦賀	浦底 (水試)	11.04.07~11.07.07	ND~6.6	0.2~14	0.2 ~ 15
	浦底 (明神寮)	11.04.01~11.07.01	ND~16	14 ~ 0.4	0.4 ~ 13
白木	松ヶ崎	11.04.06~11.07.06	ND~5.1	ND~9.4	ND~9.6
	松ヶ崎	11.04.01~11.07.01	ND~11	ND~9.8	ND~9.4
美浜	竹波 (落合川取水場)	11.04.06~11.07.06	ND~6.8	ND~14	ND~15
	丹生	11.04.05~11.07.01	ND~10	ND~15	ND~13
大飯	宮留	11.04.06~11.07.06	ND~8.5	0.4 ~ 24	0.4 ~ 25
	日角浜	11.04.04~11.07.04	ND~8.5	ND~24	ND~21
高浜	小黒飯	11.04.05~11.07.05	ND~8.5	0.5 ~ 27	0.6 ~ 28
	小和田	11.04.04~11.07.04	ND~11	ND~36	ND~33
対照*	原目町 (福井分室)	11.04.04~11.07.04	ND~8.8	0.6 ~ 23	0.5 ~ 25

注:NDは検出限界値未満

* : 対照地区の4月分の降下物(採取期間: 11.04.04~11.05.09)からは、Te-129、Te-129m、Cs-136も検出されている。

表4 指標植物(ヨモギ・松葉)

単位: Bq/kg生

地区	採取地点	種類	採取年月日	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs
敦賀	浦底	ヨモギ	11.05.11, 11.06.02	0.2~0.3	0.2~0.6	0.2~0.5
	浦底(明神寮)	松葉	11.06.09	ND	1.3	1.1
白木	白木	ヨモギ	11.05.11, 11.06.02	ND	0.2	0.2
美浜	竹波	ヨモギ	11.05.11, 11.06.02	ND	0.4~0.6	0.2~0.3
	丹生	松葉	11.06.03	ND	1.3	1.1
大飯	日角浜	ヨモギ	11.05.10, 11.06.01	ND	0.4~0.6	0.4~0.6
	畑村	松葉	11.06.06	ND	1.5	1.7
高浜	小黒飯	ヨモギ	11.05.10, 11.06.01	ND	0.6~0.8	0.6~0.7
	小黒飯	松葉	11.06.06	ND	2.4	2.2
対照	原目町	ヨモギ	11.05.09, 11.06.03	ND~0.3	0.2~0.7	ND~0.7

注:NDは検出限界値未満

2 海洋試料

海産食品(藻類)および指標海産生物で、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137が過去3カ年の実績を超えて検出された。

表5-1 海産食品(藻類)

単位: Bq/kg生

地区	採取地点	種 類	部位	採取年月日	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs
敦賀	立石岬	ワカメ	除根	11.04.06	0.2	ND	ND
	立石漁港	ワカメ	除根	11.05.06	ND	0.1	0.0
白木	松ヶ崎	ワカメ	除根	11.04.02	0.4	ND	ND
	白木沿岸	ワカメ	除根	11.04.11	0.2	ND	ND
	松ヶ崎	ワカメ	除根	11.05.10	ND	0.1	0.1
	アジゴ崎	ワカメ	除根	11.05.10	ND	0.1	0.1
美浜	竹波	ワカメ	除根	11.04.05	0.3	ND	ND
大飯	黒崎	ワカメ	除根	11.04.06	0.5	ND	ND
	台場浜	モズク	全体	11.05.06	0.5	0.0	0.0
対照	河野沖	ワカメ	除根	11.05.07	0.2	ND	ND
		モズク	全体	11.05.15	0.2	ND	ND

注:NDは検出限界値未満

表5－2 指標海産生物

単位: Bq/kg生

地区	採取地点	種類	部位	採取年月日	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs
敦賀	明神崎F	ホンダワラ	除根	11.05.12	0.3	ND	ND
	水島	ホンダワラ	除根	11.05.12	0.8	ND	ND
	釜谷元川河口	ホンダワラ	除根	11.05.12	0.3	ND	ND
	立石	ホンダワラ	除根	11.05.12	0.3	ND	ND
	2号放水口	ホンダワラ	除根	11.05.12	0.9	ND	ND
	ふげん放水口	ホンダワラ	除根	11.05.11	0.5	ND	ND
白木	松ヶ崎	ホンダワラ	除根	11.04.27	5.1	ND	ND
美浜	1,2号放水口	ホンダワラ	除根	11.04.07	0.8	ND	ND
	3号放水口	ホンダワラ	除根	11.04.07	0.5	ND	ND
大飯	放水口	ホンダワラ	除根	11.04.05	1.0	ND	ND
高浜	3,4号放水口	ホンダワラ	除根	11.04.06	0.7	ND	ND
	音海	ホンダワラ	除根	11.04.06	0.2	ND	ND
	貯木場	ホンダワラ	除根	11.04.06	1.0	ND	ND
対照	福井市小丹生町	ホンダワラ	除根	11.04.06	0.4	ND	ND

注:NDは検出限界値未満

核種分析でヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137 等が検出された事例について

- ①大気試料、指標植物、降下物、海産食品、指標海産生物からヨウ素-131が検出された。
- ②大気試料、指標植物、降下物、海産食品からセシウム-134がCs-137とほぼ同程度の濃度で検出された。



各地区の第1四半期分試料から**福島第一原子力発電所事故の影響**と考えられる**ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137等**が検出されたが、環境安全評価上で問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。



5 トリチウム分析結果

(報告書: 本文はp.8、測定結果は第17～20表[p.59～63])

- 陸水(水道水)、大気中水分、雨水および海水について分析を行った。
- 陸水からは発電所の影響は観測されなかった。
- 大気中水分、雨水、海水から発電所の通常^{通常}の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全評価上問題となるレベルと比べ、はるかに低い濃度であった。

トリチウム分析結果の概要

(単位: Bq/ℓ)

地区・ 期間 試料	敦 賀 地 区		白 木 地 区		美 浜 地 区	
	今 期	08～10年度	今 期	08～10年度	今 期	08～10年度
陸 水	0.6～0.9	0.6 ～1.6	0.5 ～0.7	ND ～1.5	1.2	0.9 ～1.8
大気中水分	1.4 ～4.7	0.9 ～13	1.3 ～3.7	0.9 ～4.2	1.6 ～3.7	1.3 ～10
雨水	1.0～1.3	1.2 ～6.2	1.0	0.6 ～1.9	1.1 ～1.2	1.0 ～3.8
海 水	ND ～1.5	ND ～1100	0.6～1.0	ND ～1.4	0.5 ～11	ND ～5.6

地区・ 期間 試料	大 飯 地 区		高 浜 地 区		対 照 地 区	
	今 期	08～10年度	今 期	08～10年度	今 期	08～10年度
陸 水	0.6	ND ～1.5	—	ND ～1.6	0.6	ND ～0.9
大気中水分	1.8 ～4.9	2.1 ～12	5.1 ～16	0.7 ～39	—	ND ～1.2
雨水	1.5 ～3.1	1.2 ～7.7	0.9 ～5.1	0.6 ～9.1	—	ND ～0.8
海 水	ND～0.9	ND ～2.1	ND ～11	ND ～10	—	ND ～1.0

注: NDまたは—は検出限界値未満

(報告書 p.8 表-3)

6 まとめ

①線量率連続測定および積算線量測定結果

県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。

②浮遊じん放射能の連続測定結果

いずれも天然放射能のレベルであった。

③環境試料の放射能測定結果

- ・大気試料、指標植物、降下物、海産食品および指標海産生物から、福島第一原子力発電所事故の影響と考えられるヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137が検出されたが、環境安全評価上問題となるレベルと比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全評価上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。



健康長寿な福井です。

したがって、今期の県内原子力発電所の
運転による環境安全上の問題はなかった。



健康長寿な福井です。

Ⅱ 福島第一原子力発電所事故に関連した 臨時放射能調査報告(平成23年3月～9月)



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<1>

大気中ヨウ素

(単位:mBq/m³)

核種 試料	調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
	月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
大気中ヨウ素	定期	3月分	10	10	/	0.1~0.3	/	/
		4月分	10	10	/	0.0~0.2	/	/
		5月分	10	0	/	—	/	/
		6月分	10	0	/	—	/	/
		7月分	10	0	/	—	/	/
		8月分	10	0	/	—	/	/
		9月分	10	0	/	—	/	/
	臨時	3月分	39	7	/	ND~4.2	/	/
		4月分	86	30	/	ND~21	/	/
		5月分	78	0	/	—	/	/
		6月分	69	0	/	—	/	/
		7月分	34	0	/	—	/	/
		8月分	35	0	/	—	/	/
		9月分	28	0	/	—	/	/

—は検出限界値未満、/は調査対象外

* 1: 大気中ヨウ素の定期調査においては同一地点で粒子状とガス状試料を個別に採取・測定

* 2: 定期調査は技術会議計画に基づく調査



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<2>

浮遊じん

(単位:mBq/m³)

試料	核種	調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
		月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
浮遊じん	定期	3月分	14	8	3	5	0.0~0.1	ND~0.1	ND~0.1
		4月分	14	9	14	14	0.0~0.3	0.0~0.7	0.0~0.8
		5月分	14	0	12	13	—	ND~0.1	ND~0.2
		6月分	14	0	1	2	—	ND~0.2	ND~0.1
		7月分	14	0	0	0	—	—	—
		8月分	14	0	0	0	—	—	—
		9月分	14	0	0	0	—	—	—
	臨時	3月分	40	5	0	0	ND~1.2	—	—
		4月分	86	19	17	20	ND~8.6	ND~14	ND~12
		5月分	78	0	2	1	—	ND~2.1	ND~3.9
		6月分	69	0	0	0	—	—	—
		7月分	34	0	0	0	—	—	—
		8月分	35	0	1	1	—	ND~2.1	ND~1.9
		9月分	28	0	0	0	—	—	—

—は検出限界値未満、／は調査対象外
定期調査は技術会議計画に基づく調査



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<3>

陸水

(単位:mBq/l)

核種 試料		調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
		月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
陸水	定期	3月分	1	0	0	0	—	—	—
		4月分	1	0	0	0	—	—	—
		5月分	1	0	0	0	—	—	—
		6月分	6	0	0	0	—	—	—
		7月分	1	0	0	0	—	—	—
		8月分	6	0	0	0	—	—	—
		9月分	6	0	0	0	—	—	—
	臨時	3月分	14	0	0	0	—	—	—
		4月分	30	0	0	0	—	—	—
		5月分	31	0	0	0	—	—	—
		6月分	30	0	0	0	—	—	—
		7月分	31	0	0	0	—	—	—
		8月分	31	0	0	0	—	—	—
		9月分	30	0	0	0	—	—	—

—は検出限界値未満、／は調査対象外
定期調査は技術会議計画に基づく調査



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<4>

降下物

(単位: Bq/m²)

核種 試料		調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
		月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
降下物	定期	3月分	11	11	4	4	2.0~14	ND~0.4	ND~0.3
		4月分	11	11	11	11	5.1~16	9.4~33	9.4~36
		5月分	11	0	11	11	—	0.4~2.3	0.4~2.4
		6月分	11	0	5	6	—	ND~0.6	ND~0.6
		7月分	11	0	7	7	—	ND~0.5	ND~0.5
		8月分	11	0	3	3	—	ND~0.2	ND~0.3
		9月分	11	0	0	0	—	—	—
	臨時	3月分	16	0	0	0	—	—	—
		4月分	30	3	2	2	ND~17	ND~4.1	ND~3.9
		5月分	31	0	0	0	—	—	—
		6月分	30	0	0	0	—	—	—
		7月分	31	0	0	0	—	—	—
		8月分	31	0	0	0	—	—	—
		9月分	30	0	0	0	—	—	—

—は検出限界値未満、／は調査対象外
定期調査は技術会議計画に基づく調査



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<5>

陸土、指標植物(定期調査)

(単位:Bq/kg)

核種 試料	調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
	月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
陸土	4月分	1	0	0	1	—	—	1.7
	5月分	7	0	0	7	—	—	1.4~69
	6月分	1	0	0	1	—	—	140
	7月分	2	0	0	2	—	—	1.6~7.5
	8月分	1	0	0	1	—	—	21
	9月分	3	0	2	3	—	ND~0.8	4.6~6.6
指標植物 (ヨモギ [*])	5月分	6	2	6	6	ND~0.3	0.2~0.7	0.2~0.8
	6月分	6	1	5	6	ND~0.2	ND~0.6	0.2~0.6
	7月分	6	0	3	5	—	ND~0.4	ND~0.7
	8月分	6	0	3	5	—	ND~0.3	ND~0.3
	9月分	6	0	1	3	—	ND~0.3	ND~0.3
指標植物 (松葉)	6月分	4	0	4	4	—	1.1~2.2	1.2~2.4
	8月分	2	0	2	2	—	0.5~1.3	0.5~1.5

—は検出限界値未満、／は調査対象外



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<6>

海水、海底土（定期調査）

（単位：海水 mBq/l、海底土Bq/kg）

核種 試料	調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
	月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
海水	3月分	1	/	0	1	—	—	1.6
	4月分	9	/	0	9	/	—	1.5～2.5
	5月分	7	/	0	5	/	—	ND～3.1
	8月分	9	/	0	5	/	—	ND～2.1
	9月分	1	/	0	1	/	—	1.5
海底土	3月分	2	0	0	0	—	—	—
	4月分	17	0	0	7	—	—	ND～6.1
	5月分	4	0	0	0	—	—	—
	6月分	2	0	0	0	—	—	—
	7月分	9	0	0	3	—	—	ND～6.2
	8月分	5	0	0	1	—	—	ND～1.6
	9月分	2	0	0	0	—	—	—

—は検出限界値未満、/は調査対象外



核種分析による人工放射性核種検出数と検出濃度範囲<7>

海産食品、指標海産生物(定期調査)

(単位:Bq/kg)

核種 試料	調査		検出された試料数			検出濃度範囲		
	月	試料数	I-131	Cs-134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137
海産食品 (魚類)	4月分	10	/	0	7	/	—	ND~0.2
	5月分	2	/	0	2	/	—	0.1~0.2
	6月分	4	/	0	4	/	—	0.1
	7月分	3	/	0	3	/	—	0.0~0.1
	9月分	1	/	1	1	/	0.3	0.4
海産食品 (貝類)	6月分	11	/	0	4	/	—	ND~0.1
	7月分	10	/	0	0	/	—	—
	8月分	1	/	0	0	/	—	—
海産食品 (藻類)	3月分	2	0	0	0			
	4月分	8	6	0	0	ND~0.5	—	—
	5月分	11	3	4	4	ND~0.5	ND~0.1	ND~0.1
指標海産 生物	3月分	5	1	0	0	ND~0.6	—	—
	4月分	8	8	0	0	0.2~5.1	—	—
	5月分	6	6	0	0	0.3~0.9	—	—
	6月分	8	0	0	1	—	—	ND~0.2
	7月分	9	0	0	1	—	—	ND~0.1
	8月分	1	0	0	0	—	—	—
	9月分	8	0	0	1	—	—	ND~0.1

—は検出限界値未満、/は調査対象外



健康長寿な福井です。

参考 成人の預託実効線量が0.05mSvとなる大気および食品中の核種濃度

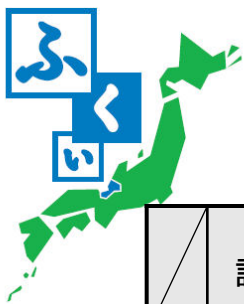
(単位: 大気 (mBq/m³)、その他 (Bq/kg))

	大気	魚類	無脊椎動物	藻類	葉菜
I-131	410	43	420	210	170
Cs-134	300	36	360	180	140
Cs-137	150	53	520	260	210
一日あたりの摂取量	22.2m ³	200g	20g	40g	100g



調査結果の概要（定期および臨時）

- ・ 線量率連続測定：福島第一原子力発電所事故および県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定：いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 環境試料の放射能測定：大気試料、指標植物、降下物、海産食品および指標海産生物から、福島第一原子力発電所事故の影響と考えられるヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137等が検出されたが、公衆の被ばく線量は年間0.001ミリシーベルト以下と計算され、無視できるレベルである。



チェルノブイリ事故時との比較

(単位: 大気試料(mBq/m³)、降下物(Bq/m²)、その他(Bq/kg生)

	試料名	核種	3～9月分測定結果最大濃度			チェルノブイリ事故時との比	チェルノブイリ事故時最大濃度*1		
			採取期間	採取地点	濃度		採取期間	採取地点	濃度
陸上試料 (定期)	大気	ガス状 I-131	3/3～4/7	敦賀浦底 A	0.3	170分の1	86/4/17～5/9	美浜竹波	59*3
		粒子状 I-131	3/3～4/7	敦賀浦底 A	0.1	33分の1	86/5/2～6/6	敦賀浦底	3.9*4
		Cs-137	4/4～5/6	敦賀浦底 B	0.8	14分の1	86/5/2～6/6	敦賀浦底	12*4
		Cs-134	4/4～5/6	敦賀浦底 B	0.7	8分の1	86/5/2～6/6	敦賀浦底	5.9*4
	指標植物 (ヨモギ)	I-131	5月9日	福井原目	0.3	3000分の1	1986/5/9	敦賀浦底	960
		Cs-137	5月10日	高浜小黑飯	0.8	84分の1	1986/5/12	敦賀明神町	70
		Cs-134	5月9日	福井原目	0.7	45分の1	1986/5/15	敦賀明神町	33
	松葉	Cs-137	6月6日	高浜小黑飯	2.5	16分の1	1986/5/21	高浜神野浦	41
		Cs-134	6月6日	高浜小黑飯	2.2	10分の1	1986/5/21	高浜神野浦	24
	降下物	I-131	4/1～5/2	敦賀浦底(明神寮)	16	150分の1	86/4/2～5/7	高浜小和田	2400
		Cs-137	4/4～5/9	高浜小和田	36	5分の1	86/5/2～6/2	敦賀松島	190
		Cs-134	4/4～5/9	高浜小和田	33	2分の1	86/5/2～6/2	敦賀松島	81

*1: 昭和61年度福井県環境放射能測定技術会議年報より

*2: 昭和61年度第1四半期衛研(当時)報告書(1.61pCi/m³)より。

*3: 昭和61年度福井県環境放射能測定技術会議年報では試料が2分割(5/2～5/9と5/9～6/6)されて報告されていたため、両結果から5/2～6/6採取分に換算計算した。



チェルノブイリ事故時との比較

(単位: Bq/kg生)

	試料名	核種	3～9月分測定結果最大濃度			チェルノブイリ事故時との比	チェルノブイリ事故時最大濃度 * 1		
			採取期間	採取地点	濃度		採取期間	採取地点	濃度
海洋試料 (定期)	海産食品 (魚類)	Cs-137	9月6日	敦賀色ヶ浜 (養殖)	0.4	同レベル	1986/10/1	高浜内浦湾	0.5
		Cs-134	9月6日	敦賀色ヶ浜 (養殖)	0.3	同レベル	1986/6/18	美浜1, 2号放水口	0.2
	海産食品 (藻類)	I-131	4月6日	大飯黒崎	0.5	910分の1	1986/5/8	大飯鋸崎	440
		Cs-137	5月6日	敦賀立石漁港	0.1	29分の1	1986/5/8	大飯鋸崎	2.5
		Cs-134	5月10日	白木松ヶ崎	0.1	21分の1	1986/5/8	大飯鋸崎	1.3
	指標海産生物	I-131	4月27日	白木松ヶ崎	5.1	210分の1	1986/5/7	美浜丹生大橋西	1100

* 1: 昭和61年度福井県環境放射能測定技術会議年報より



チェルノブイリ事故時との比較

(単位: Bq/kg生)

	試料名	核種	3～9月分測定結果最大濃度			チェルノブイリ事故時との比	チェルノブイリ事故時最大濃度 * 1		
			採取期間	採取地点	濃度		採取期間	採取地点	濃度
臨時	大気	ガス状I-131	4/17～4/18	敦賀吉河	21	38分の1	86/5/5～5/6	敦賀吉河	810
		粒子状I-131	4/17～4/18	敦賀吉河	8.6	51分の1	86/5/7～5/8	対照原目	440
		Cs-137	4/18～4/19	敦賀吉河	12	5分の1	86/5/7～5/8	対照原目	63
		Cs-134	4/18～4/19	敦賀吉河	14	2分の1	86/5/7～5/8	対照原目	30
	降下物	I-131	4/19～4/20	福井原目	17	150分の1	86/5/3～5/4	敦賀	2600
		Cs-137	4/19～4/20	福井原目	3.9	21分の1	86/5/11～5/12	敦賀	85
		Cs-134	4/19～4/20	福井原目	4.1	10分の1	86/5/11～5/12	敦賀	41

* 1: 昭和61年度福井県環境放射能測定技術会議年報より